

1. 松本市で学ぶ外国由来児童生徒

1) 日本語指導が必要な児童生徒数

- … 全国…43,947 人（外国籍 34,335 人、日本国籍 9,612 人）
- … 長野県…636 人（外国籍 503 人、日本国籍 133 人）
- … 松本市日本語教育センターの支援数…29 年度 46 人、30 年度 49 人（H30. 12 現在）
小学校 14 校 36 人、中学校 6 校 13 人、市内全域に散在

2) 由来国

中国、フィリピン、ブラジル、韓国、ネパール、シンガポール、ベネズエラ、カナダ、ボリビア

3) 子どもたちの来日理由

- ・親の就労、結婚、留学 ・親戚を頼って ・母国にいられない事情
→大人の都合 →子どもたちの背景が多様化

4) 子どもたちが直面する困難さ

- ・カルチャーギャップ … 地域・家庭・学校
- ・日本語ゼロで来日 … 来日年齢、母国での学習歴
- ・日本生まれ日本育ちだが日本語不十分（ダブルリミテッド）
- ・発達障害が疑われるケース … 先天的？後天的？
- ・高校入試の壁 … 生活言語と学習言語、教科学習の難しさ、教育制度の違い

2. 外国由来の子どもたちのサポート体制

1) 松本市と CTN の協働事業（市からの委託）

- ・多文化共生プラザ
- ・子ども日本語教育センター … 支援員を派遣し学校で日本語指導、学校訪問、
就学進学のための各種ガイダンス、情報提供 ほか

2) CTN の子どもサポート事業（ボランティア）

- ・松本ヤング日本語教室
- ・中信にほんごひろば 並柳団地集会所
→ 学校内の支援では補いきれない教科サポート、過学齢期生徒対応、子どもたちの居場所

3. 将来の展望が描けない子供たち

- ・高校進学を見据えた教科学習支援が不十分
学校 … 教員の手が回らない
センターによる日本語支援 … 日本語初期指導がメイン、制度上教科そのものは教えられない
ヤング日本語教室などボランティア教室 … 担い手不足、運営費不足
- ・高校進学後のサポート体制が不十分 … 入学しても中退率が高い
- ・メンタル面のサポート … 母語による相談
- ・アイデンティティー確立の難しさ

4. 今後必要なこと

- ・ノウハウを持った人材、場所を生かして、現在行っている事業のさらなる充実
- ・外国由来の子どもたちの背景や現状を広く知ってもらうこと